



手軽に、身軽に、高画質で

超望遠撮影を楽しもう!

プロミナー500mm F5.6 FLで楽しむ「野鳥・飛行機・ネイチャーフォト」

プロミナー
PROMINAR レポート

プロフォトグラファー
中野耕志
×
テレフォトレンズ/スコープ



PROMINAR 500mm F5.6 FL

憧れの超望遠撮影がここまで身近に!

中野耕志
×
テレフォトレンズ/スコープ
プロミナー
PROMINAR
レポート



PROMINAR 500mm F5.6 FL/TX10 (500mm) + EOS-1D Mark IV (35mm判換算焦点距離650mm)

□待望の500mm/F5.6レンズ登場

野鳥撮影の標準レンズともいえる大口徑超望遠レンズですが、その高画質と引き替えに、大きい、重い、高価格というデメリットがあります。とくに多くの野鳥写真家が使う500mmF4クラスは、長さは約40cm、重さ約4kg、価格は100万円と、とても気軽に扱え

るものではありません。また、400~500mmクラスまでカバーする小口径ズームレンズという選択肢もありますが、これらの中には満足いく画質を期待できるものは少ないのが現状です。

そんなとき、私自身、長らく待ち望んでいた、手頃な大きさと価格を実現した500mm

F5.6クラスのレンズ、PROMINAR 500mm F5.6FL (以下「プロミナー500mm」と表記)が、ついに登場したのです。

正直なところ、「プロミナー500mm」が発表されたときは若干の戸惑いを覚えました。というのも、オートフォーカスや手ブレ補正機能全盛のこの時代に、あえて“マニュアルフォーカス”“実絞り”という仕様で市場に投入されたからです。しかし見方を変えれば、オートフォーカスや手ブレ補正のために要する余分な光学系を省略したぶん、より重要な画質の高さを追求できるということであり、事実「プロミナー500mm」の7群7枚のシンプルな光学系は、高級硝材の最高峰であるフローライトクリスタル(蛍石)1枚と、XDレンズを2枚採用し、とことん高画質を追求しています。



ちなみに、2大カメラメーカーの500mm F4は14~17枚と多数のレンズを使っていますが、同時にこのことは、重量の増加や高価格につながり、故障や不具合の発生をも招きかねない“もろは諸刃の剣”でもあるのです。

□手にして実感、その軽さ・小ささ

実際に「プロミナー500mm」を手にしてみました。全長こそ34cmとやや長いものの、重量が2kg未満と500mmF4の約半分で、まさに重すぎず軽すぎないちょうど良い感じ。フードを外せばコーワスポッティングスコープのフラッグシップ、TSN-880シリーズと同じ程度の大きさ、といえば分かりやすいでしょうか。

最も気になるのがその描写性能ですが、スポッティングスコープの代名詞ともなっている“プロミナーPROMINAR”の名を冠するだけに、その

名に恥じない描写性能を備えているというのが私の第一印象です。



上:TSN-884
下:プロミナー500mm







□画質はダントツのキレ味

普段から使っている私のメイン機材は500mmF4クラスで、その画質のキレ味を基準としているので、画質への要求はシビアだと自負していますが、「プロミナー500mm」

のキレ味はこのクラスではダントツであり、なにより絞り開放から安心して使える画質だという点が最高でした。また、マニュアルフォーカスの操作が不安という人もいるでしょうが、野鳥写真の場合、どんなに高価な機材を使ってもオートフォーカスだけで納得のいく写真を撮ることはなかなかできないものです。ワンランク上の作品を目指すならマニュアルフォーカスの習得は必須テーマ。まずは経験を重ね、慣れることから始めましょう。

軽量コンパクトで高画質が「プロミナー500mm」の持ち味



| | | | |
|---|--|---|--|
|  マスターレンズ (レンズフード付風) 標準キット 希望小売価格 285,000円 (税別) | マウントアダプター TX10 500mm/F5.6 |  TX10 単体 希望小売価格 25,000円 (税別) | レンズ交換式一眼カメラ  ■対応マウント：キヤノン、ニコン、ペンタックス、マイクロフォーサーズ、ソニー (A) |
| | マウントアダプター TX07 350mm/F4 |  希望小売価格 40,000円 (税別) | |
| Telephoto Lens Spotting Scope  | マウントアダプター TX17 850mm/F9.6 |  希望小売価格 50,000円 (税別) | デジスコ アイピース  ■デジスコ対応アイピース： TE-17W、TE-11WZ、 TE-10Z、TE-20H 希望小売価格 58,000円 (税別) |
| | プリズムユニット TP-88EC1 |  希望小売価格 58,000円 (税別) | |

□驚くほどの拡張性の高さ

「プロミナー500mm」のもう一つの特長に、システムの拡張性の高さがあります。

基本スタイルは、一眼レフ、またはミラーレス一眼を装着し、マウントアダプターTX10使用で500mmF5.6として使いますが、マウントアダプターをTX07またはTX17に変更することで、それぞれ350mmF4、850mmF9.6のレンズに。さらに、マウントアダプター部分をプリズムユニットTP-88EC1に付け替えればスポッティングスコープ本体になり、アイピースやフォトビデオアダプターなどのカメラアダプター類を使用することによって、観察や高画質のデジスコ/ビデオ撮影も可能になります。



撮影用超望遠レンズ(左)として、観察用スポッティングスコープ(右)として多彩に活用できる「プロミナー500mm」

□撮る/見るをザックひとつに収納

「プロミナー500mm」があれば、山岳地や海外旅行といった荷物を制限される場合も、これまでのように超望遠レンズ+スポッティングスコープの2本を持ち歩く必要なし。マスターレンズとマウントアダプター、プリズムユニットとアイピースを持参すれば、撮影と観察の両方を1本のレンズでまかなえ、これら全てを合わせても小ぶりのザックに収まります。



このように、「プロミナー500mm」には、カメラ専用レンズやスポッティングスコープには真似のできない、野鳥観察・撮影に関するあらゆるシーンで活躍してくれる高いシステム拡張性と機動性があるのです。



拡張性・機動性が高いから 様々なシーンで活用できる

では、ここから「プロミナー500mm」の拡張性・機動性の高さを生かした、実際の撮影例を紹介しましょう。

□一眼とデジスコ撮影が自由自在

被写体までの距離が遠いときに俄然、実力を発揮するのがデジスコ撮影です。

「プロミナー500mm」は、マウントアダプターをプリズムユニットに付け替えるだけでスポッティングスコープ本体に変身します。アイピースはTSN-880/770シリーズ用のものが全て使用できますが、最もおすすめなのが視野が広く高画質なTE-17W 30xWIDE。十分な大きさが得られる目安である15m

以内の被写体や動きモノを撮るなら一眼、15m以上ならデジスコというように使い分け、変幻自在に超望遠&高画質撮影を楽しみましょう。



遠いアオジをデジスコ撮影

□海外で撮るくエアショー・パフィン

私が海外へ撮影に出かけるとき、いつも頭を悩ませるのは機材選びです。飛行機を撮影するには、最低でもカメラ1台と500mmクラスの超望遠レンズ、それから地上展示機用の短いレンズも欲しいところ。それにアクセサリ類とノートパソコンなどの荷物を含めると、航空会社の手荷物制限重量を超えることもしばしばです。中でも一番重いのは500mmF4で、重量が4kg近くもある上、大きくかさばります。それが「プロミナー500mm」では、重さが約半分になり、グンと身軽に移動することができました。



まずは、エアショーの撮影です。飛行機の飛行速度は非常に速く、また見上げるアングルでの撮影が多くなるため、私の場合、手持ち撮影が基本になります。レンズ先端部を左

手の人差し指で支え、親指と中指でフォーカスリングを回します。このとき飛行機の動きにフォーカスを合わせるのではなく、タイム



手持ち撮影の時は、三脚台座を外すとさらに200g以上軽量になる

ラグを考慮してピントを先回りさせるイメージで撮るのが成功へのキーポイント。必ずや「プロミナー500mm」の素晴らしい解像感を実感できる1枚が撮れることでしょう。

次に向かったのがイングランド北東部沖のファーン諸島。北大西洋沿岸部に広く分布する愛らしい海鳥「パフィン(和名:ニシツノメドリ)」を撮影するためです。



海をバックに鳥を撮るときは、複雑な波の動きにピントが持っていられるオートフォーカスより、マニュアルフォーカスでの撮影がダンゼン有利。飛行時には、ピントリングに

印字された距離目盛りを参考にして15m~20m程度にピントを合わせておき、鳥がその距離を通過するタイミングに合わせてシャッターを切る、いわゆる“置きピン”で。地上で休む個体なら、頑丈な三脚でファインダー像を安定させ、鳥の目に正確にピントを合わせることで「プロミナー500mm」が持つ高いポテンシャルを遺憾なく発揮させましょう。

□高い機動性が切り開く新世界

風景写真で最もよく使われる焦点距離は28-70mmや70-200mmの広角~中望遠域ですが、見た目に近い画角と距離感のため、つい平凡な写真になりがちです。ガツンとインパクトのある写真を撮りたいなら「プロミナー500mm」で! 300mm以下のレンズでは決して味わえない圧倒的なクローズアップ性能と圧縮効果が、「プロミナー500mm」ならではの高い機動性と描写力を実感させてくれるはず。飛行時には、ピントリングに



プロミナー500mm × オリンパスOM-D EM-5

より手軽に高画質な野鳥撮影を楽しむ

中野耕志
×
テレフォトレンズ/スコープ
プロミナー
PROMINAR
レポート



PROMINAR 500mm F5.6 FL/TX10 (500mm) + OM-D EM-5 (35mm判換算焦点距離1,000mm)



野鳥撮影をより気軽に高画質で

フルサイズ一眼レフカメラとの組み合わせで満足のいく高画質が得られる「プロミナー500mm」ですが、これまでマニュアルフォーカスの難しさから敬遠された方もいることでしょう。ところが、2012年春、オリンパス社からOM-D EM-5 (以下、OM-Dと表記)

が発売されて以降、マニュアルフォーカスでのピント合わせが格段にラクになり、野鳥撮影がさらに気軽に楽しめるようになりました。



野鳥撮影向きな オリンパス社のOM-D EM-5

“レンズ交換式ミラーレスカメラ (通称:ミラーレス一眼)”は、本格的な一眼レフデジタルカメラとコンパクトデジタルカメラの中間的な存在として注目を集め、2011年から2012年にかけて一気にそのシェアを伸ばしており、メーカー各社から様々なモデルが出揃いました。

中でもOM-Dは、4/3インチ撮像素子を持つマイクロフォーサーズ規格で、画素数は約1,600万画素と高画質。さらに9コマ/秒の高速連写と、レスポンスの良いEVF (電子ビューファインダー) 装備とくれば、スペックだけをみても野鳥撮影向きの機種であることがうかがえます。



プロミナー500mmと OM-Dの相性

このOM-Dと「プロミナー500mm」との組み合わせで得られる焦点距離は、なんと標準仕様のTX10で1000mm F5.6*、TX07で700mm F4*、TX17で1650mm F9.6*! これほどの超望遠システムが、カメラとレンズを合わせてもわずか約2.5kgという超軽量で実現でき、それにしただがって機動性も大幅に向上するので。同等のパフォーマンスを、一眼レフカメラと大口径超望遠レンズのシステムで組もうとすれば、重量は5kg、価格は100万円を超えるでしょうから、「プロミナー500mm」とOM-Dの組み合わせが、いかにお手頃、かつ機動性に富んだシステムであるかがお分かりいただけるのではないのでしょうか。

フィールドを歩き回る野鳥撮影の際には、何よりもこの“機動性”が魅力なはず。またその画質も、一眼レフカメラと大口径超望遠レンズの組み合わせに匹敵するものであり、質の高い写真が要求される野鳥専門誌の表紙に、このシステムで撮影した写真が選ばれたことこそ、その証だといえるでしょう。

*35mm判換算焦点距離



プロミナー500mm+OM-Dで雑誌の表紙として使える画像も撮れる (発行:株式会社文一総合出版)

「プロミナー500mm」に 最適なサポート機能

一眼レフカメラシステムと比べてたとき、「プロミナー500mm」とOM-Dの組み合わせシステムに足りない部分は、オートフォーカスが使えない点です。しかしOM-DのEVFには、「反

応速度が速い」、「144万ドットで見やすく、ピントの山が分かる」、「簡単な部分拡大機能」など、マニュアルでのピント合わせをサポートしてくれる機能が満載されています。

また、一眼レフカメラで最も多いブレの原因はミラー作動による振動で、とくに暗い森の中での撮影では深刻な問題となりますが、ミラーレスカメラでは文字通りミラーがないため、ミラーショックそのものが皆無。そのため低速シャッター時には一眼レフカメラよりはるかに歩留まりが高くなります。そのうえOM-Dの場合、内蔵されている手ブレ補正が非常によく効くため、手ブレやカメラブレを大幅に低減してくれるのです。

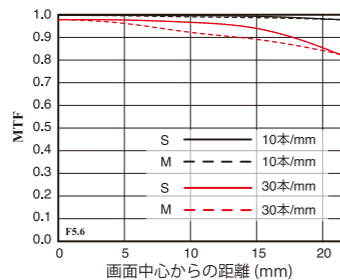
このように、コンパクトかつ高画質撮影を可能にした「プロミナー500mm+OM-D」は、ビギナーから上級者にまでおすすめできる超望遠システムです。ぜひ、野鳥撮影の本命機として、存分にご活用ください。



テレフォトレンズ/スコープ PROMINAR 500mm F5.6 FL

■標準キット マウントアダプター-TX10装着時

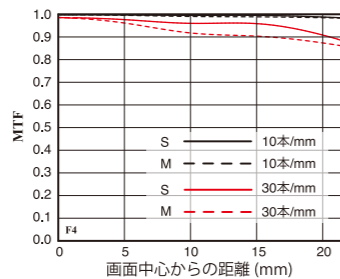
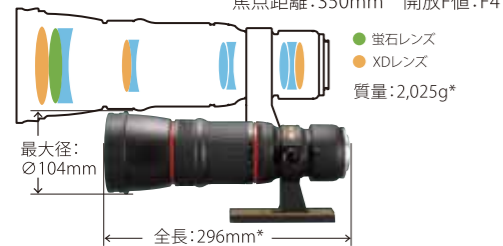
焦点距離:500mm 開放F値:F5.6



フローライトクリスタル[蛍石]:1枚
XDレンズ:2枚
レンズ構成:7群7枚
画角[フルサイズ対角]:4.9°
絞り値:F5.6~11
絞り羽根:9枚
最短撮影距離:3m
最大撮影倍率:0.17x
フィルター径:φ95mm

■オプション マウントアダプター-TX07装着時

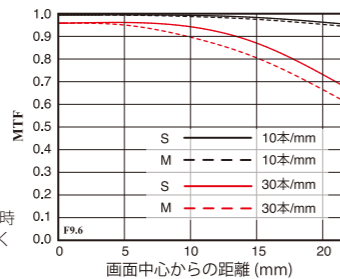
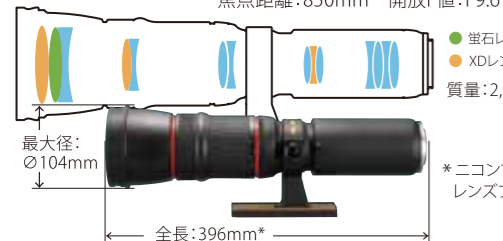
焦点距離:350mm 開放F値:F4



フローライトクリスタル[蛍石]:1枚
XDレンズ:3枚
レンズ構成:10群10枚
画角[フルサイズ対角]:7.0°
絞り値:F4~8
絞り羽根:9枚
最短撮影距離:3m
最大撮影倍率:0.12x
フィルター径:φ95mm

■オプション マウントアダプター-TX17装着時

焦点距離:850mm 開放F値:F9.6



フローライトクリスタル[蛍石]:1枚
XDレンズ:3枚
レンズ構成:13群14枚
画角[フルサイズ対角]:2.9°
絞り値:F9.6~19
絞り羽根:9枚
最短撮影距離:3m
最大撮影倍率:0.29x
フィルター径:φ95mm

MTF: 被写体の持つコントラストをどの程度忠実に再現できるかを空間周波数特性によって表した、レンズ性能を評価する指標のひとつです。一般的に低周波(10本/mm)の数値が1に近いほどコントラストの良いレンズ、高周波(30本/mm)の数値が1に近いほど解像力が高いレンズと言えます。(S:同心円方向 M:放射線方向)

PROMINAR 500mm F5.6 FL

Photo Gallery



コマドリ *Erithacus akahige*

PROMINAR 500mm F5.6 FL/TX10 (500mm) + OM-D (35mm判換算焦点距離1,000mm)



オジロワシ *Haliaeetus albicilla*

PROMINAR 500mm F5.6 FL/TX10 (500mm) + EOS-1D Mark IV
(35mm判換算焦点距離650mm)

流氷の白いエッジに色滲みが出ないのは、高画質レンズの証。「プロミナー 500mm」に搭載されたフローライトクリスタルと2枚のXDレンズがもたらす透明な空気感は、オジロワシの眼が鋭く光る瞬間を見逃さなかった。



ニシツノメドリ *Fratercula arctica*

PROMINAR 500mm F5.6 FL/TX10 (500mm) + EOS-1D Mark IV
(35mm判換算焦点距離650mm)

イングランド北東部沖の島、ステーブル島。ボートツアーに参加し“パフィン”に会いに来た。夢中で撮影している間に、2時間ほどの上陸時間はあっという間に過ぎてしまった。





大阪・伊丹空港のボーイング 777 をマウントアダプター TX07 を使い 350mm で撮影。夜間撮影にもかかわらずゴーストやフレアもなく、周辺部にコマ収差や歪曲収差も見られない。



ボーイング777

PROMINAR 500mm F5.6 FL/TX07 (350mm) + EOS-1D Mark IV
(35mm判換算焦点距離 455mm)



世界最大規模のエアショーといわれるイギリスの「エア・タトゥー」。初めて撮影に訪れたのは 2002 年。4 回目になる今回のパートナーは「プロミナー 500mm」だ。



イギリス空軍レッドアローズ

PROMINAR 500mm F5.6 FL/TX10 (500mm) + EOS-1D Mark IV
(35mm判換算焦点距離 650mm)

PROMINAR 500mm F5.6 FL Photo Gallery



PROMINAR 500mm F5.6 FL/TX10 (500mm)
+ D3x

フルサイズセンサー一眼レフカメラ ニコン D3x の、2400 万画素という圧倒的な高画素にも適応する「プロミナー 500mm」。ニホンザルの毛の一本一本が、**カリカリ**にシャープに写る解像力とヌケの良さ、十分な周辺光量と周辺画質の優秀さには舌を巻いた。

ニホンザル *Macaca fuscata*



日の出30分前の雲海(信州)



PROMINAR 500mm F5.6 FL Photo Gallery

PROMINAR 500mm F5.6 FL/TP-88EC1/TE-17W
+ IXY DIGITAL 210F (35mm判換算合成焦点距離1340mm)



ミソサザイまでの距離 15~16m。遠い時にはデジスコの出番だ。早速、マウントアダプターをプリズムユニット TP-88EC1 に付け替え、アイピース TE-17W、アダプター BR-IXY210 などを装着して、キャノンのコンデジ IXY210F でデジスコ撮影。約 1300-3700mm 相当 (35mm 判換算合成焦点距離) の超望遠撮影が可能になった。



ミソサザイ *Troglodytes troglodytes*

ニコン 1 V1 との組み合わせでは焦点距離は 2.7 倍になる。カメラブレのないこの超望遠ミラーレスシステムを活かし、暗い林に棲むルリビタキをスローシャッターで撮影。



PROMINAR 500mm F5.6 FL/TX10 (500mm)
+ Nikon 1 V1 (35mm判換算焦点距離1350mm)



ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*



プロミナー 中野耕志×テレフォトレンズ/スコープ PROMINARレポート



中野 耕志 Koji NAKANO strix-photography.com

1972年神奈川県生まれ。東京農業大学農学部卒業。
大学在学中より野鳥や野生動物、風景などの写真作品を雑誌や
カレンダーなどに発表する。とくに野鳥や飛行機などの「飛び
モノ」の撮影を得意とし、近年では海外取材も多い。
著作物に写真集「谷津田小宇宙」（家の光協会）、「F-14 トム
キャット」（ソフトバンククリエイティブ）CD-ROM 写真集
「Living Landscape ～無垢の情景～」。近著に「デジタルカメラ
による野鳥の撮影テクニック」（誠文堂新光社）がある。



テレフォトレンズ/スコープ PROMINAR 500mm F5.6 FL

標準キット (TX10付属)

希望小売価格 **285,000円** (税別)

マスターレンズキット (TX10は含まれていません)

希望小売価格 **260,000円** (税別)

超望遠撮影 / 野鳥撮影を楽しむためのノウハウが満載 KOWA web サイト URL:<http://www.kowa-prominar.ne.jp>

中野耕志×テレフォトレンズ/スコープ PROMINARレポート



PROMINAR 500mm F5.6 FLの様々な
シーンでの撮影レポート

叶内拓哉の 野鳥撮影カレンダー



季節ごとの野鳥撮影の話題が充実

バードワールド BIRD WORLD



野鳥写真でつながるフォト & アルバム コミュニティ



興和株式会社
興和光学株式会社

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-11-1

Tel:03-5614-9540 e-mail:info@kowa-prominar.ne.jp



カタログはハガキ、またはe-mailで左記 興和光学(株)宛にご請求ください。

*当冊子は KOWA web サイト PROMINAR レポートに掲載されている記事からの
抜粋により構成されております。

*記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。